ぼうさい楽習のなかまづくりに

東京湾岸集合住宅ぼうさいネットワーク
（湾岸ぼうさいネット）

東京湾岸集合住宅ぼうさいネットワーク

事務局：〒104-0043
東京都中央区湊１－９－８八重洲第六長岡ビル３F
NPO地域交流センター
Web:(REC)http://www.jrec.or.jp/
Tel：03-3553-7344　Fax：03-3553-7346

東京湾岸集合住宅ぼうさいネットワークとは・・・

近年、東京湾北部直下型地震が予測される一方、湾岸域での超高層住宅群は驚くべき速さで、まるで雨後の筍のごとき速さで林立をしています。
私たちは平成19年10月に東京海洋大学のキャンパスで行われた安全･安心ワークショップを機に、災害を意識した集合住宅生活者ネットワークを作ろうということになりました。
集合住宅地域の問題は防災に限らず、高齢化による福祉、健康問題なども同等以上に重要なテーマであることが確認されてきました。そこで、防災をキーワードにしながら、広く住まいづくりの彩りを考えたり、祭り心を大事にするという意味も込めて「ぼうさい」というひらがなを使用します。
本会は、集合住宅居住者が防災を中心に福祉、健康、文化など多様なテーマでコミュニケーションを深めていくことを目的とします。
本会のメンバーは、湾岸地域を軸にしながら、広く居住者のコミュニケーションを深めようとする地域の人に呼びかけていくこととし、すでに多くのグループとも横の連携を図り始めています。また、湾岸という特徴をいかして、湾岸地域の居住空間の実態を学びながら、楽習（がくしゅう）のために川、海にも積極的に乗り出し、船を活用したフォーラムを開催して水辺から湾岸高層住宅群を見るという体験もしています。

これまでの取り組みの紹介

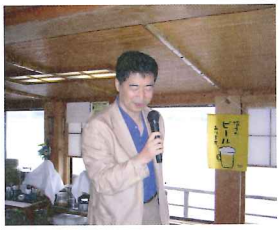
■なぎさ防災会キタコン・海上からの脱出（20年1月）

東京湾についての学習をしながら（港湾局の高見さんの話を聞く）

キタコンとは災害時に都心の職場から家に向ってひたすら歩いて帰ることを想定したものですが、災害時の道路は混乱し、容易に歩けないことも考え、海上からの帰宅も考えての訓練です。

■海上フォーラム（21年6月）葛西臨海公園沖にて

屋形船にてフォーラム



小川富由氏

■超高層の防災とは　　定例会より
ラグナタワー、WCT、ザ･東京タワーズほか訪問

湾岸超高層住宅におけるコミュニティ

ラグナタワー品川
榮本　克彦（湾岸ネット代表幹事）

■SHIN-JUMIN会（SJ会）とは

ここ数年（2001年以降）、ほぼ同時期に湾岸地域（主に中央、港、品川エリア）に本来、人間が生活していなかった倉庫、工場跡地等に竣工された新興高層、超高層マンション群に居住し始めた新住民（30～40歳代中心のファミリー層）が、居住し蓋を開けて初めて解った問題点、地域及び、旧住民、行政との折り合いの付け方等を中心に内外に共通の多くの問題点を夫々が抱えている事が判明し、2006年晩秋に４マンション有志が連携し、SJ会なる名称のもとスタートした。

試行錯誤の中、近隣の同クラスマンション同士で共有、共通する問題点が類似しており同じ目線での協力体制が必至であり、更に重要な事は、地域を知り尽くしながら老齢化という条件の旧住民に対し、数と年齢では活力はありながら地域を知らない新住民との折り合いをどうつけ、融和するかが最低条件としてあった。このように、旧住民に対し敬意を払いながら融和させて貰うという謙虚な姿勢が最も必要であると考える。

伝統を重んじ、旧住民に敬意を払い謙虚な姿勢で地域に融和させてもらうことが新住民として本来の姿（真住民）と考える。

※湾岸ネットはSJ会と共通する課題をもとに一緒にぼうさいについて取り組むことを確認しています。

品川海上公園より「水門のくじら」を望む。これはマンションの一住民の願いから実現した「住民による街の景観再生」の事例です。

江戸川区南葛西
千田節子（湾岸ネット代表幹事）

■湾岸都市に暮らす

2004年にあいついで発表された首都直下型地震の発生予測確率は30年以内に70％の確率で起きるとされてから、すでに6年を経過している。防災への膨大な情報による備蓄整備や、防災訓練などを着実に積み重ねながら、なお、大切な何かが足りないと感じる、それは「もの、ひと、こと」の何かが欠落しているとき、特にひととの関わりあいの脆弱さが気になる。超高層オートロック型マンションを選択し、建物も最先端の制震構造が為されているからほぼ安全、という暮らしの「幻想」はマンションは倒壊を免れ、ライフラインにも異常がなかった、としても街の一角で暮らす以上、ひととして関わらねばならない問題は無数に発生するであろう。

いざ、大災害に見舞われたときこそ豊かな人間力を発揮し、再生に向える大きな「ひと」の循環を、いまから問い直し結びあっておきたいと願う。

湾岸ぼうさいネットワークに寄せて

住民自らの活動を期待して

独立行政法人都市再生機構
小川富由（湾岸ネットアドバイザー）

阪神の大都市が、大規模地震に襲われてからすでに15年がたちました。関東の大都市地域でも防災のかけ声がだんだん低くなるのではと心配されます。しかし、状況の改善ははかばかしくありません。特に、湾岸地域を中心に高層の大規模マンションが建設されていますが、大規模災害での防災の備えは十分といえるのでしょうか。湾岸防災ネットは平成19年から、浦安から品川区までの大規模高層マンションの住民が防災を中心にマンション居住のあり方や地域コミュニティとの連携などについて有識者のお話も聞きながら相互の情報交流、意見交換をし、平成21年からは会則も整えて活動を進めています。煩わしさの少ないマンション居住の良さは享受しつつも、いざと言うときにお互いが、自らの住むマンションで助け合ったり、また同様な背景を持つマンション同士のネットワークで助け合ったりできる仕組み作りとして湾岸防災ネットの活動を盛り上げて行きたいと思っています。

いまこそ、人の知恵が問われている

NPO法人　東京いのちのポータルサイト
中橋徹也（湾岸ネットアドバイザー）

阪神淡路大震災の膨大な被害は、人間の「想像力の貧困さ」と、地域のつながりや被害を見て何かしたいと駆けつけてきたボランティアなど「可能性」を見せつけた。あれから15年。防災を含めた地域力の向上が叫ばれ、あいさつ等コミュニケーションの大切さが語られる一方で、地域力に実は他人を思いやる、思いをはせる力（想像力）はますます低下しており、その向上は疑問が残る。

関東を襲う地震は、約200年ごとのプレート型地震と、70年前後ごとの直下型地震である。超高層、高層集合住宅にとって、この関東地震に、東海地震、東南海地震、南海地震も加わる。直下地震の発生確率は30年で70％超であり、湾岸地域では震度６強以上が考えられる。後者は長周期、超長周期地震による被害が考えられる。高層集合住宅にとって、いずれの大地震もほとんど事例がなく、ほとんどはじめての地震。実はそこに住むひとりひとりの知恵をあわせ、活かすことが望まれているのだ。

湾岸集合住宅でのぼうさいネットワークに向けて

地域交流センター代表
田中栄治

東京湾岸集合住宅によるぼうさい交流からの発展

東京海岸部の湾岸地域の集合住宅地域では、防災対応に向けて日常的な学習交流を始めている。品川区のラグナタワー（31F）、港区のワールドシティタワーズ（42F）、江戸川区のなぎさニュータウン（14F）、中央区のザ・東京タワーズ（58F）、浦安市の海風の街　（12F）、などである。

高層マンションでは、災害時にはエレベーターが止まり、上下階の物品や人の運搬対策の必要性が想定されるなか、日ごろからの人の助け合い・支え合いの関係の構築が必要だとされる。

ところで、現代の高層住宅は、昔の長屋が縦に高くなったものだから、昔の長屋風の付き合いをすすめればよいという考えもあり、集合住宅の中に、かつての「井戸端」に相当する場所を探して、新しい近所づきあいの方法を模索しようという動きがある。団地によっては、高齢者や高齢独身者のために定例の自由交流サロンを運営して、団地内コミュニケーションの促進に努めているところもある。このような集合住宅地間のイベントや交流活動を活性化させたいものである。この４月に品川区のラグナタワー周辺で行われた運河祭りは、港区の高浜運河沿いの高層集合住宅関係者の地域祭りと連携開催され、両地域を屋形船が往来した。

なぎさニュータウン

湾岸集合住宅と源流、中越等との交流への発展

なぎさニュータウンは江戸川の最下流地域に位置していることから、上流のみなかみ町や、中越地域との物産や子供たちとの交流も実現させた。中越地域の長岡市では、ぼうさい文化という視点で東京圏の住民との交流を望んでおり、その取り組みを始めようとしている。これら交流の基本は防災がテーマであり、共助および支え合いの思想である。その上に教育や福祉、地域振興の課題が重なり、川を介しての上下流関係者、湾岸住宅地同士での"ひと・もの・まちの交流"の活性化が期待されている。世界の中東の砂漠地帯の例では「緑がなくとも人は生きられるが、人のコミュニケーション、コミュニティがなければ生き続けられない」という。湾岸集合住宅が井戸端会議風の溜り場を持ち、開放しあい、交流活動を活性化させ、閉鎖的性格を持つ団地を明るくし、防災に、福祉に、教育に、文化にと新しいコミュニケーションの風を吹かせたいものである。

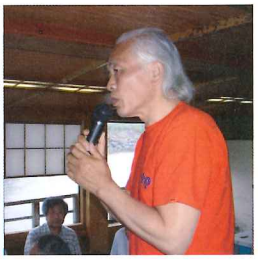
「湾岸集合住宅ぼうさいネットワーク」が中心になって、ぼうさいを合言葉に、福祉に、教育に、婚活（望妻）に、地域活性化に役立つ仕掛け、仕組みをつくりましょう！（呼びかけ文より一部抜粋）

会の立上げ経緯と活動歴

準備会　19年11月12日　新橋サロン「集」にて
　　以後6回の研究会を経て
発　足　20年4月7日（隔月定例会）

21年10月防災朝市

第8回海上フォーラム



第10回ラグナタワー

会の構成

代 表 幹 事：榮本克彦（ラグナタワー）　千田節子（なぎさニュータウン）
幹　　事：吉武　誠（WORLD CITY TOWERS）　樋口　正（富岡エステート）　村澤優子（THE TOKYO TOWERS）
　　飯田太郎（マンション管理士）　横山清美（浦安水辺の会）
監　　事：松本　洋（マンション管理士）
アドバイザー：中橋徹也（東京いのちのポータルサイト）小川富由（独立行政法人都市再生機構）
　　小川信次（全国川の駅推進実行委員会代表）　近藤健雄（日大教授）　鍵屋　一（東京いのちのポータルサイト）
　　長沢　悟（東洋大教授）　吉森和城（筑波大学大学院）
事　務　局：田中栄治（地域交流センター代表）
年　会　費：2,000円

会についての連絡先：地域交流センター（3553-7344）
千田節子（090-2238-1815）E-mail：setsuko_c@rose.sannet.ne.jp（2010. 3）